



荒川を分断する玉淀ダム



稲山良文 講師

玉淀ダムのあり方をどう考える？

答弁 慎重な対応が必要です

問 長瀬玉淀自然公園に指定された景勝地と、その象徴である荒川にある玉淀ダムは昭和39年に電気事業、農業用水を目的として建設され、一定の役割は認めますが、今や必要不可欠なものではなくなってきています。かつて必要とされたものも、いつかはその役割を終えるときが来ます。ダムの耐用年数は50年と言われていますが、今こそ玉淀ダムはどうあるべきか真剣に考える時期にきています。西部地区には「荒川の清流を蘇らせる会」が結成され、県にも陳情が上がっています。本年8月には県会議員、有識者による「玉淀ダム撤去期成同盟会」が発足しました。埼玉県では、みどり川と川の再生事業に取り組んでおり、第1回フォーラムが寄居町で開催されました。このような状況下、町長は玉淀ダムのあり方についてどのようなお考えがあるのか伺います。

答 玉淀ダムは、埼玉県と農林水産省の共同出資により昭和39年に竣工し、発電と農業用水の供給をしています。この農業用水は寄居町から深谷市にかけての櫛挽台地へ荒川の水を引き込むことにより、今日では農業経営も安定し、日本でも有数の農業生産地域と言われるようになりました。このようなことから、玉淀ダムの撤去については、課題も非常に多いものと考えられるため、国・県等の今後の動向を注視するなど、慎重な対応が必要と考えています。

▽その他の質問
・住民基本台帳カード交付の普及率の向上について

玉淀ダム

Report KENSHU

地方自治体の責任を考える機会 「議員研修」…10/17 熊谷市・さくらめいと



講師は 政策研究大学院大学教授の飯尾潤氏。「激動の日本政治と地方自治の課題」の演題で、埼玉県下30町村の議員を対象として開催。「日本政治における変化とその要因」等を

主にお話しされ、その中でも特に関心の高い、解散総選挙の見通しと選挙後の政権の姿、複雑な政治劇が展開される可能性や地方自治体の責任と日本の再建等について考える機会としても意義深い研修となりました。

Report KORYUKAI

議会の活性化について 小川町議会議員と意見交換 「第3回議員交流会」…10/17 寄居町

両町の町長以下三役も出席しての第3回となる小川町議会との交流会では、「議会の活性化」のテーマに沿って、両町議会より2名ずつの議員が活発な意見交換を行い、会場は盛り上がりました。他の出席者同士も交流を深め、最後にホンダを介して両町の発展を誓いました。



小川町・寄居町 議員交流会

Report FORUM

森林育成に対する使命を実感 「みどり川と川の再生フォーラム」7/31 かわせみ河原

県では、「みどり川と川の再生事業」に取り組む第1回のフォーラムを開催しました。埼玉の母なる川「荒川」をよみがえらせる事業が中心になります。名水100選、水源の森100選を誇り、荒川上流に暮らす我が町は、水を仲立ちとして森林と人との理想的な関係がつけられています。フォーラムに参加し、これからも川を大切に水を汚さない、水源となる森林の育成に努めていかなくてはならないことを強く感じました。



報告します

委員会 Report

第4次三ヶ山地域開発調査特別委員会 「三ヶ山地域の開発調査について」

県職員から説明受ける

彩の国資源循環工場第II期事業について、7月11日に県に要望書を提出しましたが（議会だより49号をらんくさい）、これに対して、県職員から回答と説明を受けました。

- ・工業団地面積の拡大と最終処分場については、第I期で縮小したのと同程度の6ヘクタールを上限にした。
- ・国道254号と西ノ入地区を結ぶ道路も平成25年に供用できる見通し。
- ・工業団地の下水道整備については、今後関係機関と協議する。
- ・平成24年の竣工に対し、事業進捗にあわせて議会・地元協議会へ説明を行っていく。

文教厚生常任委員会

「企業との文化交流について」

企業の考え把握のため、アンケート実施も

委員会において、主に次のような質疑応答がありました。

問 産業文化祭への企業の関わりは、

答 商工会の工業部会に依頼し、企業にできることとしてパンフレットの配付や製品の展示をしている。関心を集め、企業のアピールと企業を知る機会になっている。

問 企業の協力による出前講座の実施は、

答 例えば「〇〇講座の1日を1T講座とし、1T関連企業にお願いする」など、一般的な知識としての講義で特定企業の営利にならないような形ならできると思う。

なお、住民と企業の文化交流については、企業に対してアンケートを行い、その考えを把握したらどうか等の意見が出され、実施することとなりました。

産業建設常任委員会

「観光農業について」

相乗効果を上げる工夫も重要

観光農園の入り込み客数の減少に対する受けとめ方について、当町では観光事業推進協議会を組織して苗木の補助や栽培の技術研修をしていますが、高齢化や後継者不足の問題もあり、観光農業で生活できる現状ではありません。

今後の事業展開は、町の特徴や特色を生かし、消費者が好む樹種の選択を研究していかないと取り残されます。町ではいち早く観光農業に取り組んでいます。別のものも考えて相乗効果を上げる工夫が重要です。

なお、「行政 観光協会・商工会がタイアップして事業展開を図り、情報の発信、さらに観光バス駐車場の確保や食事ができる拠点の整備も必要」等の意見が出されました。

総務常任委員会

「安心・安全なまちづくりについて」

子どもの安全に関し、各学校の現状を調査

当委員会では、委員からテーマに沿った意見を伺い、子どもやお年寄りの安心・安全について、特に防犯の側面を中心に調査・研究を行うこととしました。その中で、「町内での子どもの安全に対する取り組みの現状を把握する必要がある」との意見があり、協議の結果、委員が分担して各小中学校を回り、児童生徒の安全に対する取り組みについてのアンケート調査を行うことが決まりました。

子どもを守るためのさまざまな取り組み

